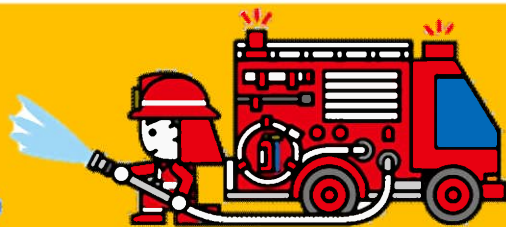




# 消防学校 ニュース



令和7年1月号

## 火災調査科(第 49 期) ～調査技術を習得せよ～

令和6年12月9日(月)から12月20日(金)まで、消防学校において火災調査科を実施し、県内16消防本部(局)から46人の消防職員と静岡県警察本部から12人の警察職員の合計58人が入校しました。

平成25年度から警察職員を受け入れ、校内で共同生活しながら教育訓練を実施しています。

火災調査の目的として、消防は「調査」、警察は「捜査」と違いはありますが、ともに安心安全な街づくりを目指すことに変わりはありません。

学生は、調査関係法規からはじまり、損害調査、車両構造、車両火災見分要領、原因調査要領、火災調査と裁判、放火犯罪と鑑識、製品火災鑑識要領、電気火災などの教育を受け、最後の集大成として模擬家屋を実際に燃焼させて原因調査を行う模擬火災演習を実施しました。



車両構造



車両火災見分要領





通常点検

(形は心により生じ、心は形により長ず)



座学



放火犯罪と鑑識



製品火災鑑識要領



電気火災



電気火災





製品模擬鑑識演習



模擬火災演習



模擬火災演習



模擬火災演習

(担当教官から)

火災調査の目的は、火災予防です。この目的を達成するために、火災の原因と損害を明らかにしなければいけません。また、対象とする火災実態も建物火災、製品火災、車両火災及び化学火災など幅広いため、原因を究明するには専門的な知識と技術が必要となります。この教育訓練で、入校生の皆さんには、実習を中心とした70時間のカリキュラムを学んでいただきました。

各教育訓練の様子を拝見し、学生の皆様には非常に前向きに各講義・実習に取り組んでいただいたと感じています。限られた時間数で全てを熟知するのは難しいことですので、引き続き、所属において消防学校で得た知識を更に深めていただきたいと思います。

また、共同生活の中で、消防職員と警察職員が意見交換をすることで、互いの組織に対する理解が深まり、信頼関係が構築できたことと思います。この教育で得た学びを今後の現場活動に生かしていただき、原因究明と犯罪捜査に役立てていただきたいと思います。

最後になりますが、本教育訓練に御支援いただいた講師、教育支援隊の皆様には心から感謝申し上げます。今後とも消防学校教育に御理解、御協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

教務課主査 仲村 直樹 (下田消防本部から派遣)



# 消防大学校レポート

## 警防科第 115 期

Fire and Disaster Management College

Fire Suppression Course 115th



# FDMC

From October.31 through December.19, 2024

令和6年 10月31日(木)から 12月19日(木)まで、消防大学校警防科第 115 期に入校しました。



指揮シミュレーション訓練



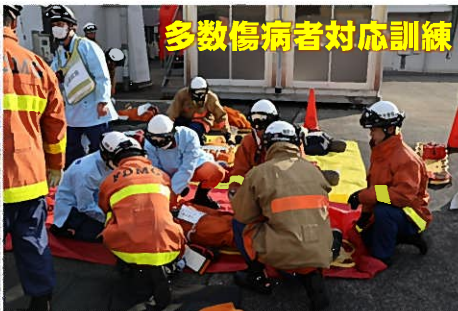
危険物火災対応訓練



街区火災対応訓練



土砂災害救助訓練



多数傷病者対応訓練



NBC 災害対応訓練



消防大学校



警防科は「警防業務に関する高度な知識及び技術を専門的に習得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させること」を目的に年2回開催されている専科教育です。第 115 期入校生は、北は北海道から南は沖縄県まで1都1道2府 32 県から 48 人の消防職員が集まり、濃密な 50 日間となりました。

座学は、警防活動の多様な理論・事例・戦術、現場指揮論や教育技法、安全管理等について素晴らしい講師陣から学びました。訓練は、小隊指揮から街区火災訓練までのシミュレーション訓練を行った後に実技訓練を実施するようにステップアップしていくプログラムとなっており、個々の技量とチーム力を段階的に養いながら取り組めるように構成されています。班員をはじめ、大隊内で想定に対しての戦術等意見を交わしながら取り組む刺激だらけの訓練の日々でした。

全国から集まった同期は、知識技術だけでなく、人間性も魅力的な方ばかりでした。課外時間には、様々な方言が飛び交う中で意見情報交換に勤しむ、掛け替えのない貴重な時間を過ごさせていただきました。

この貴重な経験を消防学校及び所属への教育に反映させて行くことが消防大学校へ派遣させていただいた私の果たすべき責務だと痛感しています。確実に努めて参ります。

教務課主査 鈴木 雅人（富士山南東消防本部から派遣）



# 消防団員幹部教育 初級幹部科（第16期）



令和6年12月15日（日）に消防団員幹部教育初級幹部科を実施し、県内消防団から40人が受講しました。訓練では、安全管理に主眼を置いた火災、土砂災害現場での活動要領、指導する側としての搬送法、止血法を実施しました。

今回、消防団等充実強化アドバイザー派遣要綱に基づき、広島県から一般社団法人ひろしま防災支援協会代表理事の柳迫長三様に講師を依頼し、土砂災害対応時の活動と必要な安全管理について、被災時の体験談を踏まえ、教授していただきました。

今回の訓練で得た知識や技術を団員同士共有していただくことで、本県消防団の充実強化につなげていただきたいと思います。

教務課主査 水野 清人（磐田市消防本部から派遣）



（防災 座学）



（防災 実科）



（現場指揮 注水要領）



（防災指導要領 搬送法）



（防災指導要領 止血法）

## 消防団員幹部教育指揮幹部科分団指揮課程(第10期)

令和6年12月8日(日)に指揮幹部科分団指揮課程を実施し、幹部として分団の指揮を担う県内66人の消防団員が受講しました。

入校前には安全管理や消火戦術、地域防災等の動画によるオンライン学習で幅広い知識を学び、消防学校では災害対応図上シミュレーション訓練、現場での指揮対応や常備消防との連携について理解を深めました。



【大規模災害シミュレーション図上訓練】



【グループディスカッション】

### (担当教官から)

「分団指揮者としての責任を自覚し、消防団の管理運営及び活性化に資する幅広い知識を有すること」を目標に、訓練では市町の現状等を交えながら活発なディスカッションが行われ、積極的に取り組む姿勢に受講者の責任感や使命感が表れており、意識の高さを感じました。

本教育で得た知識を各消防団に持ち帰っていただき、引き続き消防団の地域防災力の強化に努めていただきたいと思います。

教務課主査 永田 裕司(菊川市消防本部から派遣)



## 三沢校長から一言

先週の初め、またまた救急車に道を譲らないドライバーを目撃しました。帰路、静清バイパスで後方から救急車接近、私は速度を落とし左車線へ、後続車は私に従いますが、前を走る連中はどきません。救急車がかなり接近すると、やっと左に避けましたが、救急車通過後は安全な速度で走行する救急車を煽るようにつついていきました。翌朝はトレーラーが譲らず、救急車が抜いていけません。続けてマナーの悪いのを見てしまいましたが、週末には2回後方から救急車がくる事例があり、そのうち1回は先頭が私でしっかりと譲り合い、救急車は赤信号をスムーズに通過していきました。ちょっとすっきりしました。

突然の野球ネタですが、私が今とても腹が立っているのは、日本の野球殿堂に選ばれたイチロー氏が満票ではなかったことです。しかも、米国よりも得票率が低い。投票しなかった記者は誰なのか？調べて来年からは投票の権利を剥奪すべきです。日本人野手として初めて成功し、あれだけの成績を残している。理屈っぽいとか、いろいろ言うヒトはいるでしょう。私もそう思っていました。が、そんなのは彼の実績にケチをつける理屈にはなりません。もっと日本人に活躍してほしいですが、次は翔平でしょうね。

野球ネタが続きますが、常葉大菊川が春のセンバツに出場します。関係者の皆さん、おめでとうございます。昔ハマショウ今トコキク、2つ3つと勝てそうな常葉大菊川に期待です。

センバツといえば、どうしても数年前の聖隷クリストファー騒動を思い出します。特定の選考委員が岐阜のベテラン監督に付度し、孫と一緒にプレーする、と強調し聖隷を押し退けて強引に出場させました。それで負けたら格好悪いので、初戦は力の劣る21世紀枠を当てる徹底ぶり（私見です。なんの根拠もありません。）。地域性だの春は投手力だのと言っても、直接戦っていないチームに甲乙つけられるはずがない。しっかりと順位戦を実施すべきと常々思っています。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索